

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	エコ農業推進事業			会計	款	項	目	大	小
				01	06	01	03	03	54
政策	05	5節	賑わいと活気に満ちた流山（産業の振興）	主管課	農業振興課				
施策	5-4	多様な方面からの農業の振興		主管課長	安蒜 康志				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内の農産物の生産体制	意図	環境と人にやさしい農業について、消費者の理解と信頼を得る。
事業内容	「有機栽培」「低農薬栽培」「減化学肥料栽培」と消費者のエコロジー趣向が進むことから、市内の農作物の生産にあたっては、生産者に対して農薬や化学肥料の使用の減量化について喚起を行うとともに、率先してエコロジー農業に取り組む生産者に対して助成を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	農薬、化学肥料を減量使用することは、生産過程で発生する病害虫による被害等のリスクを負うことになり、また、有機肥料中心での生産は、コストと労力の増加を伴うこととなるため、助成制度の整備が求められ、平成21年度から本事業がスタートした。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
	①	「ちばエコ農産物」の認定を受けている品数	1	1	1	品	→→	千葉県による認定
②	「エコファーマー」の認定を受けている生産者数	9	9	8	人	→→	千葉県による認定	
③	エコ農業手法を実施している生産農家数	48	48	49	件	→→	補助金交付対象件数	
④								
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果	消費者の安心感の高揚、市内農産物への信頼度の向上を図る。					目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ◆「ちばエコ農産物」「エコファーマー」の認定等に係る説明等を行っているが、新たな応募が現れない。 ◆堆肥利用等によるエコ農業手法を実施している生産者に変化がない。		
事務事業のコスト		平成28年度	平成29年度	平成30年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)		1,722,100	1,375,480	1,463,680				
事業費(b)(円)		1,447,500	1,107,000	1,200,000				
うち一般財源		1,447,500	1,107,000	1,200,000				
職員給与費(c)(円)		274,600	268,480	263,680				
人役・職員(人)		0.04	0.04	0.04				
人役・再任用(人)								
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	生産者に「ちばエコ農産物」「エコファーマー」の周知及びPRを行う。	③取組における課題(Check)	市内の消費者における低農薬等野菜のニーズがどのくらいあるのか確認できていない。
②H30に実施した取組(Do)	各団体の会議において、エコ農業についての説明を行った。	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	引き続き、農業協同組合の協力のもと、エコ農業についての周知を図っていく。